

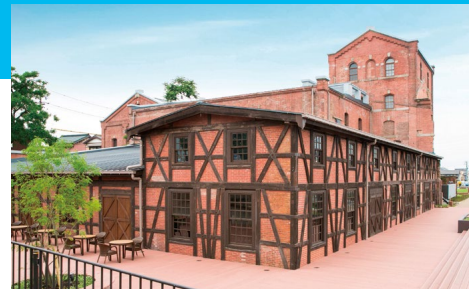
半田市の魅力を  
紹介するダシ!



だし丸くんレポート

# 「半田赤レンガ建物」の誕生

【問合わせ】 観光課 ☎ 84-0689



もあつたと言われています。酒は、半島という地の利を活かし、廻船で江戸へと出荷され、半田は醸造と海運業で栄華を誇りました。明治に入り、酒税の大増税から酒造業は厳しい状況へと追い込まれ、この地域の酒造家たちは当時の花形産業となつていたビール事業に興味を持ちます。

その新しい酒「ビール」に魅せられた二人が、中埜酢店（現ミツカングループ）4代目中埜又左衛門でした。中埜又左衛門は、甥の盛田善平にビール醸造の調査をするよう命じ、横浜や東京など各地を調査し、半田に戻った善平からの報告を聞いた中埜又左衛門は、ビール造りを事業として始めることを決断します。

明治20（1887）年、現在の半田市堀崎町に「丸三麦酒醸造所」が発足し、明治22（1889）年、「丸三ビール」と名付けられたビールが半田から初出荷されます。新発売とあつてコルク栓10個に対してビール1本贈呈というサービス付で大々的に売り出されました。派手でユニークな宣伝が評判となり生産量もしだいに増え、日清戦争の大勝からの好景気も重なって、丸三ビールは大都市の大手4社「エビス（東京）、アサヒ（大阪）、サッポロ（札幌）、キリン（横浜）」に次ぐ規模となります。明治29（1896）年、丸三麦酒株式会社が発立され、本格的にビールを生産するため、新工場の建設が進められます。

その新工場こそが今に残る「半田赤レンガ建物」なのです。設計は、明治建築界の三大巨匠の一人妻木頼黄に依頼し、半地下構造や5重の復壁、レングアーチで埋めた耐火床など、ビールの醸造工場として必要な断熱の工夫が詰まった建物が発足しました。半田赤レンガ建物では、今でもそうした当時の建物構造の工夫をご覧いただくことができます。

また、本格ドイツビールの生産にこだわり、ドイツからビール醸造用設備を揃え、機械技師と醸造技師も招きました。そして、出来上がったビールの商標を「カブトビール」と変え、明治32（1899）年に発売を開始します。

当時の人々のビール造りにかけた情熱は、明治33（1900）年パリ万国博覧会でのカブトビールの金賞受賞につながりました。

その後、会社組織の幾度の合併等を経て、太平洋戦争の局面の深刻化に伴い、昭和18年（1943）に半田赤レンガ建物でのビール製造を中止することとなります。

平成27年7月から常時公開となった現在の半田赤レンガ建物では、復刻したカブトビールを味わうことができます。一地方都市半田から全国へと果敢に挑戦した半田の先人たちの熱い想いを感じ、そのこだわりが生んだカブトビールの味わいにぜひ半田赤レンガ建物へお越しください。



UDFONT  
真やういユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

## みなさんの「声」を聞かせてください アンケート

- Q1 今号でよかった内容や写真があれば教えてください。
- Q2 今号を読んだことがきっかけで行動したこと、または、したいことはありましたか。
- Q3 市報で取り上げてほしい内容や企画、広報に関するご意見・ご感想などありましたらお聞かせください。

### 回答方法

住所、氏名、年齢、アンケートを書いて、ご送付ください。

### あて先

〒475-8666  
東洋町2-1  
企画課  
Eメール  
kouhou@city.handa.lg.jp



2月は「節分の日」があります。豆まきをしたり、恵方巻を食べたりしますね。私は今年の節分は、なかなか収まらない新型コロナウイルスという鬼を、豆まきでやっつけたいと思います。

豆まきで鬼をやっつけた後は、2021年の恵方である南南東を向いて、恵方巻をかぶりつきましょ。

（浅野）

### 編集後記



QRコードは機読センサーの登録商標です。  
VEGETABLE OIL INK  
印刷 中埜総合印刷株式会社  
植物油インキ使用